

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①単元や一単位時間で、育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりをする。②日々の授業改善を進め、適切な言語活動を通して、相手意識や目的意識をもち豊かに表現する力を育成する。③児童が学習方法を選択しながら、主体的に学習を進められるようにする。
担当	

学力向上に関わる本校の状況
<p>(1)学力に関わる児童の実態 横浜市学力・学習調査の結果から、学習意識は高いものの、学力は市の平均よりも低い傾向にあることが分かる。また、学校評価アンケートからは、「自分と違う意見について考えたり、友達と協力したりするのは楽しいと思う」という思いをもっている児童が比較的多い。しかし、「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」項目は自己評価が低い。実際、語彙力や基礎知識の少なさや定着の低さ、語彙の意味を理解し自分の思いを表現する言葉として使うことが難しい実態や、少しでも自力で解けない問題や課題があると諦めてしまう傾向も強い実態がある。各学年で、漢字や計算、学習用語の定着を図ることや、読書習慣をつけ、文章を読むことに慣れていくことで、読解力の基礎を身に付け、その上で、自ら課題意識をもち調べたり友達と意見を交流したりすることを多く取り入れ、試行錯誤しながら学ぶ授業を行い、自ら学習を選択し、対話を通して考えを深め、表現する力を高めていけるよう努めていきたい。</p> <p>(2)これまでの学校の取組状況 ・昨年度は、重点研究テーマ「自分の思いや考えを豊かに伝え合おうとする子の育成」に向け、主体的に学ぶ力を育む算数科の授業づくりの研究を行った。児童が自分の考えを友達に説明したいと思えるような数学的活動や教材、学習展開の工夫をすることや、より伝わる説明ができるようにするために適切な学習用語を定着させることで、主体的に学ぶ力が育まれるだろうという仮説を基に研究を進めてきた。 ・高学年における一部教科担任制を通し、児童の資質・能力の着実な育成を効果的に図ってきた。 ・基礎・基本の定着を図るために、少人数指導やチームティーチングでの学習支援、特別支援体制の充実を目指した。 ・朝学習を、国語・算数・読書の時間と定め、一年を通して学習の基礎を身に付けられるようにした。</p>

今年度の目標
①児童が主体的に学びに向かおうとする態度を育てるとともに、引き出したい資質・能力を明確にした授業を行う。②児童が学習方法を選択しながら、主体的に課題や問題に関わっていけるように、全ての単元において教科横断的な授業づくりを行っていく。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が学習方法を選択しながら、主体的に課題や問題に関わるように、全学年において教科横断的な授業づくりを行っていく。また、1～6年生縦の系統性も意識し、学びが積み重なるような学習が進められるようにする。 ・「チーム学年経営」による、教科分担制、専科や少人数指導やチームティーチングでの学習支援、特別支援体制の充実を目指して基礎・基本の定着を図る。 ・より多くの教員・支援員等が児童と関わり、「心の安定」を基盤にした「学力向上」を図る。 ・実態に即した1年生のスタートカリキュラムの実践を通して、幼保小のスムーズな接続を促す。 ・朝学習(朝モジュール学習)を意図的・計画的に活用し、言葉遊び・言葉調べや算数スキルやデジタルドリル等を取り入れ、語彙力や算数の基礎力を高める。 ・読み聞かせや読書タイム、図書の時間を効果的に活用したり、学校司書と連携し、教科の学習に並行読書や調べ学習を取り入れたりして、読書活動の推進と目的読みの力を高める。 ・重点研究では、算数科の授業づくりを通して、児童が主体的に学びに向かおうとする態度を育てるとともに、他教科にもつながる資質能力を引き出すための手立てを研究する。 ・自然や人材など深谷のまちの特色を生かした学習を組み立て、相手意識や目的意識をもった学びの場を設ける。
下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・「チーム学年経営」による、教科分担制、専科や少人数指導やチームティーチングでの学習支援、特別支援体制を充実させ、主体的に学ぶ力を高める。 ・全国(6年)学力・学習状況調査や横浜市学力・学習状況調査の結果から成果と課題を分析し、学習指導計画に生かすようにする。 ・俣野保育園を中心とした幼保小の交流を通して、1年生は、相手となる園児の思いを汲み取った活動を考え、実践する力を養う。5年生は家庭科の学習と関連付けたり次年度の入学児童との関係づくりの始まりにしたりする。 ・小中の連携を図り、小中児童生徒交流の活動を通して、中学校の学習に向けた期待と意識が高められるようにする。 ・生活科や総合的な学習の時間を主とした教科・領域において、まちとのつながりを重視し、「人・もの・こと」を関連付けた学習を意図的・計画的に進めることで、相手意識や目的意識をもった学びを深める。 ・前期の重点研究の振り返りを生かし、算数科の授業の中での言語活動・数学的活動の充実を図るとともに、自己調整力を高めるための具体的な手立てをとる。